



伸びた茎が楽しく踊っているように見えるので踊り葉ボタン。種から育てなくても、9月下旬に買って来た苗でも同じように作れる

♪アロハボタン～ オドリハボタン～♪



おしながき!? アブラナ科たち



こんなに仲間がいるんだニヤ

種まきには128～200穴のセルトレーが最適。種は1粒ずつセルトレーにまく。暑い時期は、種の上にパーミキュライトを覆土すると芽が出やすい。若い芽はナメクジの大好物。よく観察して見つけたら取り除く



プレゼント

「エコガーデン コンパクト培養土」3.5kg・609円を10人に。軽量で持ち運びが楽。水でふくらむ培養土です。1袋で3.5kgの培養土が作れ、草花の栽培に適しています。23%の応募要領で。プレゼント番号=30、賞品名=コンパクト培養土 商品提供=ハイポネックス ジャパン 06-6396-1119 http://www.hyponex.co.jp



の芽の先端の茎(軸)を切り取る。2週間位で残った葉の付け根から新しい芽が伸び出してくる。
【挿し木が簡単】
切った芽を市販の花の土を入れた3号ポットに挿す。しおれないように1週間程水やりを続けると、簡単に根付いて、背の低い新しい葉ボタンができる。

葉ボタンの準備は夏から

真冬を彩る葉ボタンはキャベツと同じアブラナ科の植物です。関西では7月下旬～8月中旬が同科の植物の種まき適期。これを逃すと、葉ボタンはきれいな色の葉が少なく貧弱に、キャベツやハクサイはうまく結球しなくなります。



様々に色付く葉が美しい葉ボタン

- 【真夏の種まきのポイント】
- 種まき専用の土を使い、種をまく前に土を十分に湿らせる。
- 種はセルトレーなどに1粒ずつまき、粗いパーミキュライトなど、通気性の良い土をかぶせる。
- 土の表面が乾かないように、芽が出るまで新聞紙や寒冷紗などで覆う。
- 芽が出たら、徐々に日光に慣らす。本葉が出たら日当たりの良い所に移し、腰の低いガッチリした苗を作る。水やりは日何回でもOK。
- 苗の時期は、茎が曲がるような強い水かけを嫌うので、丁寧に土だけをしっかりと湿らせる。
- 【大きさは植え替えで調節】
- 種まき後30日以内(1、0号ポット(直径9cm))に1株ずつ植える。
- アブラナ科の植物は生育初期に肥料を好む。植え替え後1～2週間で、大粒の緩効性肥料を3粒程ポットの端に埋め込む。生育が順調になったら、10月上旬までに1、2回、同じように追肥する。
- 色付きを良くするには、10月中旬以降は肥料を与えない。
- 大きな葉ボタンを作る場合は、9月下旬に5号ポット(直径15cm)や庭に植え替える。ミニ葉ボタンを作りたい時は3号ポットのままで育てる。
- アブラムシやアオムシ類が付きやすいので、粒剤の殺虫剤を植え付け直後に土に置くが良い。
- 【踊り葉ボタンに挑戦】
- 9月中旬に、生育の順調な株や、伸び過ぎた株